

スギ薬局 所沢航空公園店様

村田 麻美 先生

## ユニバーサルカセットで調剤業務に 効率と安心を。

多くの在宅患者様を受け持つスギ薬局 所沢航空公園店。  
一包化調剤の増加による問題を解決したのは、ユヤマユニバーサルカセットでした。  
導入の理由と、使用しての感想を、村田麻美先生に伺いました。

昨今、在宅療養患者の増加等により、一包化調剤が広く普及されるようになりました。しかし、薬剤の種類が多さから、従来の自動分包機の搭載カセット数では補いきれないことも多く、手撒き作業が増え、困っている薬局も多いのではないのでしょうか。

今回は、調剤業務の効率化を求め、ユヤマユニバーサルカセットを導入した、スギ薬局 所沢航空公園店の村田麻美先生に話を伺いました。

西武新宿線の航空公園駅から徒歩ですぐ、学校や官公庁が並ぶ並木通り沿いに店を構える所沢航空公園店。伺ったのは、開店から間もない時間でしたが、既に多くの患者様が訪れていました。



「基本的に面で処方箋応需をしている薬局なので、特定の病院・クリニックばかりでなく、この地域に住む患者様が、いろいろな病院・クリニックの処方箋を持って来局されます。在宅患者様ががんの末期の方などもおられ、医療用麻薬の取り扱いや、無菌調剤室での点滴の混注を行っていて、輸液の取り扱いも、ほかの薬局に比べると多いのではないかと思います。その結果、当薬局では幅広い薬剤を扱っています。」

そんな所沢航空公園店の最大の特徴は、在宅患者様の多さにあります。



「所沢市内にもスギ薬局が何店舗かありますが、当店が断トツで多く、個人在宅だと全社の中で一番多いくらい、在宅が盛んな店舗です。毎日のように、薬剤師が患者様のご自宅へ薬を届けています。」

一方で、在宅患者様が多いがゆえの問題がありました。

「在宅患者様が多いため、一包化調剤がほとんど。老人ホームなどの施設在宅も2施設持っており、そこも全員分、一包化しています。多い日だと、施設30人分プラス在宅20人分プラス外来5～6人分を一包化していて、それが全部手撒きだったので、負担が大きくなっていました。」

一包化の手撒きにかかる手間を減らし、調剤業務の効率化をはかりたいと考えたことが、ユヤマユニバーサルカセットの導入のきっかけとなりました。

「手撒きよりも自動分包してもらった方が、間違いがなく、効率の面でもいいと考え、導入に至りました。今は、すべてを手撒きするという事はなくなりました。手撒き用の分包機も置いてありますが、ユニバーサルカセット搭載の分包機の方が断然効率がいいので、手撒き用の分包機は使っていません。」

1日平均60～70枚の処方箋受付の中で、一包化調剤は半分を占め、今はそのほとんどにあたる約30枚分で、ユニバーサルカセットを使用しています。



「幅広い薬剤を扱っている薬局なので、固定カセットだけの機械ですと、そのカセットに入っていない錠剤を手撒きする必要があります。ユヤマの分包機は、ユニバーサルカセットが5カセット付いているので、ユニバーサルカセットと固定カセットで、どの錠剤もまかなうことができ、効率がありました。半錠の時は下のマスに手撒きする事もありますが、多くの薬剤に対応出来るので、使いやすく本当にいいです。」

ユニバーサルカセットは、使用する薬剤の形状に合わせて、自動で薬のサイズを判断し、払出口の形状が変化。ひとつのカセットで様々な薬剤に対応可能なので、手撒き調剤が軽減できます。



「さらに、カセットの前面にディスプレイがあり、処方データに合わせて、薬剤の名称や個数、患者様の名前も全部出てくるので、とても見やすく、間違い防止にもなります。欠品の時に、何錠足りないなどと表示されるのも使いやすいです。」



また、ユニバーサルカセットを導入したことで、効率化だけでなく、安全面も改善されたと、村田先生は話します。

「導入前は、手撒きしていたので、隣のマスに飛んでしまい、撒き直しなんてことも…。ユニバーサルカセットを導入してからは、そういった調剤ミスはないです。」



「手撒きの自動化により、鑑査の負担が減ったことも安心。」と言う村田先生。特に、在宅患者様が多いからこそその悩みも解消されました。

「1日に出勤する薬剤師は5～6名。その内、半分ずつ在宅担当と外来に分かれて運営しています。ほかのスギ薬局に比べて、処方箋の枚数の割にはスタッフ人数が多いとは思いますが、パート勤務スタッフが帰った後に、在宅担当の薬剤師が戻ってくるまでの少しの間だけ、薬剤師が1人になってしまう時もあります。そういう時に一包化の処方箋が来ると、自分で手撒きして自分で鑑査するのはすごく大変だし、不安でした。そのような時に、自動で撒いてくれたものを、自分が鑑査するので安心です。」



広い範囲の在宅患者様を受け持ち、場所によっては車で片道30～40分かかることもあり、薬局に残る少ない人数で調剤業務を行なうために、ユニバーサルカセットが欠かせない存在になっているようです。

「今もどんどん在宅の件数が増えているので、同じ人数で運営していくには、作業を効率化しなくてはなりません。医師や看護師さんとの連携であったり、患者様への対応は、力を入れてやってきているので、その分、調剤作業の部分で、効率を上げる、ユニバーサルカセットを導入して良かったです。」

地域の処方医や医療スタッフとの連携の強い所沢航空公園店。先月は、個人宅の新患が34名。地域に根付き、さらに在宅患者様が増え続けている裏には、スタッフの努力もありました。

「自分も以前は、患者様から相談を受けても、どうしたらいいかわからず、なかなか役に立てる事がなくて悔しい思いをしました。私は今、緩和薬物療法認定を取得する為勉強中で、自分なりにこうしたらいいのではないのかという意見を、医師と相談することができるようになりました。」

ほかのスタッフも認知症研修認定を取得する勉強をしていたり、専門分野の勉強をしている人が多いです。そういう面で、医師や看護師さんとお話出来るスタッフが多いので、信頼して頂いているのだと思います。」



信頼される薬局を目指す上でとり着いた、ユニバーサルカセットの導入。村田先生のお話から、分包作業の負担や手間、不安を削減することで、患者様や処方医に接する時間や、自身の勉強の時間を増やし、業務全体の質を上げることに繋がっていることが分かりました。

